住民目線による情報発信(高根沢町)

【基本情報】	
団体名：第２層協議体/北高くらし支えあい協議体、つながる絆あくつ協議体	
構成メンバー：地域住民・地域の福祉事業所	
【取り組み概要】	
対象者層：高根沢町民	活動頻度：各月1回
活動場所：社会福協議会会議室	平均利用者数：各10～15人程度
利用料金：無料	

●取り組みの内容

既存の取り組みをより多くの地域住民に知ってもらうため、サービスの活用方法や詳細等について、住民目線でまとめたチラシを作成し、ＰＲ。

●取り組みをはじめたきっかけ

第２層協議体において、地域課題の共有を図る中で、住民から「デマンドバスたんたん号や高齢者の相談窓口について、チラシを作成してはどうか」という意見が出たことがきっかけとなった。

●取り組みにあたっての工夫点

既存の冊子や登録ガイド等と合わせて使えるようにする。

住民目線で必要な情報を選ぶ。

実際にたんたん号に登録、活用するなど、自分たちがまず体験する。

担当者や実施団体に依頼し、質問会を行う。

基本的に、協議体メンバーがチラシを置く場所を開拓していく。

●効果・実績

・チラシを見て、問い合わせをしてくれた方がいた。（2～3件）
・メンバーが地域活動の中で、「見た」、「活用した」との声をいただいたと報告があった。
・チラシの設置場所から補充の連絡があるなど、実際に手に取ってもらえている。

●活動にあたり連携している団体等

・高根沢町社会福祉協議会
・高根沢町健康福祉課
・高根沢町地域安全課
・宝積寺タクシー
・高根沢町西地域包括支援センター
・高根沢町東地域包括支援センター

●活動に関する広報方法

・制作したチラシの配布
・協議体メンバーによる口コミ
・広報誌によるPR
・町役場や関係各所の窓口への設置

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

・参考情報の収集
・関係各所との連絡調整
・チラシレイアウトの作成（アイデアはメンバーから出してもらう）

●現時点での課題・今後の展開

第2層協議体の新規メンバーの募集、公開講座等の実施が難しい。
今後は新型コロナウイルス感染症の対策をとりながら、徐々に元の協議体の活動に戻していきたい。

寸劇を用いた啓発活動(那須町)

【基本情報】	
団体名:那須町生活支援体制整備協議会(通称:なすあった会)※事務局は那須町社協	
構成メンバー:ボランティア・団体・社会福祉法人・NPO法人・民生委員 等	所在地:那須町大字寺子乙2566-1
電話番号:0287-72-5133	メールアドレス:info.yume@nasu-shakyo.jp
【取り組み概要】	
対象者層:住民	活動頻度:住民からの依頼により随時
活動場所:町内サロン・地域の集会所等	平均利用者数:15~20名
利用料金:なし	

●取り組みの内容

住民同士の助け合い・支え合い活動の重要性について、住民に分かりやすく説明するため、なすあった会メンバーが地域に出向き、高齢化の現状説明や寸劇を活用した普及啓発を実施。

●取り組みをはじめたきっかけ

住民同士の助け合い・支え合い活動をさらに住民に周知するため、寸劇を作成し、令和元(2019)年9月、活動を開始した。

●取り組みにあたっての工夫点

観る側が飽きることなく、助け合いを感じることができるよう、寸劇所要時間を10分程度とした。

観る方が、助け合いが「ある」・「ない」ではどのように違うか、比較できるように「こんな地域は嫌だ」と「こんな地域に住みたい」の2パターンを作成した。

「こんな地域は嫌だ」

⇒困っている高齢者に対し、見て見ぬふりをするご近所さんがいる場面。

「こんな地域に住みたい」

⇒最近、夫を亡くし、一人暮らしとなった高齢者に対し、ご近所さんが訪問し、電球の交換をしてあげる場面。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域に出向くことが難しくなったことから、寸劇を映像化し、YouTubeへの掲載やDVDの貸出を予定。

●効果・実績

寸劇を観た後の感想として、「文章を見るより、寸劇の方が分かりやすく伝わる」、「寸劇のとおり、助け合いは必要だ」、「これからは近所同士での声掛けが必要だ」、「一人暮らしの高齢者が多くなってきているから、気遣いや話し相手になってあげたい」というものがあった。

令和元(2019)年度の寸劇活動実績

・ボランティアセンター主催講座

・地域サロン　等

●活動にあたり連携している団体等

・那須町保健福祉課

・那須町生涯学習課

・那須町社会福祉協議会

●活動に関する広報方法

・那須町広報に掲載

・那須町社協だよりに掲載

・地区社協会議の際に周知

・サロンで周知

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

・寸劇原案作成

・地区社協役員やサロン担当者等に、寸劇を行えないかの呼び掛け

・寸劇が行える場合には、日程調整をし、なすあった会で寸劇に参加できる方の人員調整

・地域のサロン等に参加し、日本の高齢化の現状や寸劇説明

●現時点での課題・今後の展開

現時点での課題として、新型コロナウイルス感染症の影響で、休止するサロンが多く、寸劇を用いた啓発の機会がない。

また、YouTubeやＤＶＤで寸劇を観ることが難しい方がいるとともに、YouTubeで寸劇を観た方が、住民同士の助け合い・支え合い活動の重要性への理解が得られているかの確認ができないことも課題である。

今後の展開として、寸劇を行える場を創出し、幅広く住民に映像を観てもらえるよう働きかけ、住民同士の助け合い・支え合い活動の重要性を分かりやすく伝えるためのツールとして寸劇を使用する。(様々な支え合いの寸劇を現在も作成中)